

射水市環境審議会議事録

1 開催日時

令和6年2月19日(月) 午後1時30分から3時00分まで

2 場 所

射水市役所本庁舎会議室401

3 出席者

(委員)

- ・渡辺 幸一 (富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科教授)
- ・中村 秀規 (富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科准教授)
- ・田本 嘉巳 (富山地方気象台次長)
- ・櫻田 惣太郎 (富山県高岡厚生センター射水支所長)
- ・沖 和美 (いみず女性ネットワーク会長)
- ・山田 陽子 (いみず地球温暖化防止活動推進員 ネットワーク会員)
- ・堀 正 (射水市農業委員会会長)
- ・寺林 志朗 (射水市地域振興会連合会常任理事)
- ・中野 剛 (新湊漁業協同組合参事) ※塩谷 俊之組合長の代理
- ・折坂 利春 (公募委員)

4 欠席者

- ・中山 純一 (富山県環境科学センター所長)
- ・澤田 悦守 (射水市企業団地連絡協議会長)
- ・串田 伸男 (射水市環境衛生協議会長)

5 配布資料

- | | |
|----------------------------|-------|
| 令和4年度射水市の環境概要について | 資料1 |
| 第2次射水市環境基本計画の進捗状況について | 資料2 |
| ①射水市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)について | 参考資料1 |
| ②プラスチック資源一括回収について | 参考資料2 |
| ③令和6年能登半島地震災害廃棄物について | 参考資料3 |

6 議題

- (1) 令和4年度射水市の環境概要について 資料1
- (2) 第2次射水市環境基本計画の進捗状況について 資料2
- (3) ①射水市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について 参考資料1
- ②プラスチック資源一括回収について 参考資料2
- ③令和6年能登半島地震災害廃棄物について 参考資料3
- (4) その他

7 質疑応答及び意見の概要

(1) 令和4年度射水市の環境概要について

●事務局

資料1に基づき説明

○委員

下条川平等橋付近で大腸菌数の数値が高いが、その原因は何か。近辺に住宅などは少なく生活排水の流入は考えにくいのではないかと。

●事務局

ご指摘のとおり周辺は民家が少ないため生活排水の流入は考え辛い。野生動物の糞便による汚染が原因と推定している。しかし、野生動物が営巣しているところを直接確認しているわけではないため、原因の特定には至っていない。

○委員

光化学オキシダントは環境基準を達成していないという理解でよろしいか。

●事務局

ご指摘のとおり、光化学オキシダントの1時間値の最高値は環境基準を達成できていない。他国上空で発生した原因物質が日本上空に流入することが原因と考えている。射水市や富山県だけでなく、全国的に環境基準の達成が難しい項目である。原因物質の発生源のうち他国に占める割合が大きいため対策が難しい。

○委員

振動の測定について。どのような方法で測定を行っているのか。また、地域から道路の走行時の振動について相談を寄せられることがあるが、どのように対応しているか。

●事務局

振動については振動測定機を道路と私有地の境界線付近に設置し、測定を行っている。地域からの苦情や相談については公害苦情相談等として受け付けている。現地確認を行ったうえで必要に応じて振動測定機を用いた調査も実施している。

○委員

小島地内の1地点で騒音がわずかに規制値を超えているが、原因として考えられるものはあるか。

●事務局

自動車の走行音が原因であると考えている。周辺が開けているため、離れた道路からも車の走行音が響いてくる。そのため、交通状況によっては基準値を超える騒音が観測される場合がある。

(2) 第2次射水市環境基本計画の進捗状況について

○委員

希少動物の保全活動については具体的にどのような動物の保護を行っているのか。

●事務局

射水市ビオトープ協会でホクリクサンショウウオとミナミアカヒレタビラの保全活動を実施している。

○委員

地域花壇数が減少しているが、これは減少する傾向にあるのか。また、令和9年度の目標値が240箇所となっているが、これはそうした傾向を踏まえての目標値か。

●事務局

地域花壇は減少傾向にある。減少の理由は花壇の整備を担う地域の団体・地域住民の高齢化が考えられる。高齢化により地域団体が花壇等の整備から手を引かれるケースが確認されている。令和9年度の目標値はそうした傾向も踏まえて地域花壇数を維持するものとして設定した。

○委員

地域花壇については「花と緑の銀行」と連携して活動しているのか。

●事務局

お見込のとおりである。地域花壇は高齢化や人口減によって担い手が減少しているが、今後もその活動を支援していきたいと考えている。

○委員

電気自動車の充電ステーションについて、目標18基に対しここ最近では設置数が13基から変わっていない。なかなか数が増えないのはなぜか。

●事務局

電気自動車については地球温暖化対策の観点から市として導入を推進しているところである。数が変わっていない原因の一つは充電ステーションの寿命にあると考え

ている。充電ステーションは設置後数年で寿命を迎えてしまう。その後も使い続けるには機械を更新する必要があるが、更新せずに使用をやめてしまう事例がある。

環境課としては電気自動車の普及には、充電ステーションを全市的にかつ面的に整備する必要があると考えている。

○委員

エコアクション21に取り組む事業所が15から13へと減少しているがこれはなぜか。

●事務局

2つの事業所が取り組みを辞めた個別の理由は把握していない。ただし、取り組みを辞める理由としては、事務負担の増加や、ISOの取得による代替などが考えられる。

- | | |
|--------------------------------|-------|
| (3) ①射水市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について | 参考資料1 |
| ②プラスチック資源一括回収について | 参考資料2 |
| ③令和6年能登半島地震災害廃棄物について | 参考資料3 |

○委員

灯籠やブロック塀の回収について、市の回収を利用するには崩れた灯籠を道路沿いに出す必要があるとのことだったが、これはなぜか。

●事務局

灯籠ブロック塀の回収については、通常のごみと同様に回収するべく道路沿いに出すよう依頼しているところである。

○委員

射水市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について、業種ごとに推計温室効果ガス排出量が推計されているが、より細かな内訳や削減目標などはあるのか。

●事務局

より詳細な資料は、今後公開することとしている。本日配布した資料は概要版であるため省略されている。

○委員

射水市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について、森林によって年間四千トンのCO2吸収を見込んでいるとのことだが、これを2030年度までに達成するには年間数万本単位という大変多くの植樹を実施する必要がある。事務局としてはこれをどのように考えているのか。

●事務局

これは現在の射水市内の森林によるCO2の吸収量を推計したものであるため、今後の目標値ではない。したがって今後、年間数万本単位での植樹が必要となるわけではない。

○委員

プラスチック資源の一括回収について、資料では紙製容器包装の回収回数が現在の月2回から月1回に減る、となっている。そうなれば、月に一度しかない回収日に紙製容器が集中して出され、結果として地域のごみステーションのスペースや回収かごの不足を招くのではないか。

●事務局

紙製容器包装の回収頻度を減らすことについては、全市規模でのごみ回収日の統一のためやむを得ないと考えている。また、プラスチック資源である容器等と比較して紙製容器包装はかさばらないため、収集頻度減少の影響は限定的と考えている。回収かごの確保については対応していく。

(4) その他

○委員

射水市地球温暖化防止実行計画（区域施策編）について説明があった。その説明でもあったとおり、地球温暖化防止は地域を挙げて取り組んでいく必要があり、そのためには住民からの理解が欠かせない。我々としても地域への出前講座で気象や温暖化については説明している。今後ともご理解、ご協力をお願いしたい。

●事務局

承知した。

●事務局

射水市地球温暖化防止実行計画（区域施策編）については、今後もこの環境審議会が進捗を管理及びご報告し、委員の皆様のご意見を頂戴したい。

○各委員

了。